

東京都市大学「求める人材・大学教育へのニーズ調査」 の分析結果を踏まえた教育改善に向けた提案

2024/3/18

教育開発機構 機構長 田口 亮

教育アセスメント室 京相 雅樹

1. 今回の提案について

教育開発機構では企業へのアンケート結果の分析に基づいて、社会に求められる人材の育成という方向性から教育改善に関する提案を纏めました。各学部・学科においては社会からの要請に応じた学習・教育到達目標、カリキュラム、教育内容、教育方法になっているかを点検すると共に必要に応じてそれらを修正することが求められています。例えば、教授会等によりこの提案を構成員に周知してもらい、各学科に改善の検討を行うようご指示頂くようお願い致します。

2. 教育改善に向けた提案

(1) IT スキル

理系，文系関わらず，パソコンのスキルは必須であり，アンケートでも必要性について高い数値が得られている。回答企業の 2/3 程度は理系に関わる企業であるので，高度な要望も見られるが，多くは基本的な使い方をマスターしていることが必要であると読み取れる。このことから，全学における基本的な情報機器の利用方法に関する教育内容について，在学中のレポート，プレゼンテーションの作成方法だけでなく，社会に出てからも役立つ知識，スキルを得るような内容に更新することが必要である。

(2) 英語コミュニケーション

20%程度の企業が「社会生活での身近な話題について理解し，自分の意思とその理由を簡単に説明できる」レベル以上の英語コミュニケーション力を求めていることから，留学する学生の割合を増やすこと以外にも，最低限の英語コミュニケーション力を身につける場を増やすことが重要と思われる。そのためには外国語科目以外の科目における英語プレゼンテーション，コミュニケーションの機会を増加させる工夫が必要である。

(3) 対人スキル

アンケートの多くの項目で，コミュニケーション能力，対人スキルを重要視する回答が目立った。SD PBL などの関連する科目の他に，一般の講義科目にグループワークを取り入れるケースが増えているが，これをさらに推進する必要がある。また社会経験を求める回答も多いことから，インターンシップのさらなる推進だけでなく，社会人との接点をさらに増やすような方策を考えることが必要である。

(4) 対課題能力

道筋が定まった課題のみならず，道筋から自身で考えるような課題，あるいは正解が複数あるか，正解があるかどうか分からないような課題に対し，対応する能力を求める回答が多かった。このような能力を身につける方法のひとつとして課題解決型の授業があるが，一方で専門基礎力や基礎学力を重要視するような傾向もあるため，このあたりのバランスを考えながら教育内容を更新する必要がある。

(5) リベラルアーツ

アンケートでは特に「リベラルアーツ」という言葉は用いていないが，一般教養，一般常識を求めるような回答も見受けられた。(4)と同様，専門基礎力，基礎学力とのバランスも考えた上で，強化の方策を練ることが必要である。